

にかそりと云、出羽にては、凡て蜂をすがるといふ仙臺にてすがりといへり、

〔日本書紀雄略〕六年三月丁亥、爰命螺贏螺贏人名也、此云須我慶聚國內、至於是螺贏誤聚嬰兒奉獻天皇略下

〔和漢三才圖會五十二〕蠮螋蛄翁 土蜂 細腰蜂 螺贏 蒲蘆 俗云似我 又云腰細蜂略中

按蠮螋無雌、取桑虫負來入于窠、爲養子、祝曰似我、則長爲蜂、故名似我、蜂之說甚誤、而和漢共然

焉本草亦其論辨、多取要旨、註于上也、又倭名抄以蠮螋訓佐會里者非也即會里也

〔重修本草綱目啓蒙二十七〕蠮螋 蘇ガル日本 蘇ソリ和名 蘇ジガバチカソリ常州 蘇チスガ

リ信州 蘇コシボソ名内同 蘇ツチスガリ仙臺 蘇中略

蠮螋數種アリ、一ハ長サ八分許、濶サ一分許、腰甚細ク、絲ノ如シ、全身深黒色、夏月人家ニ飛來リ、葦

薄或ハ筆管中ニ入テ巢ヲ作ル、初泥ヲ捷テ、底ノ隔ヲナシ、小喜母蠅虎等數箇ヲ整シ傷メテ、其中

ニ入レ、其蛛ニ小子ヲ粘ス略 外ヲ泥ニテ塗リフサグ、其蛛ヲ入レ泥ヲ入ル、ゴトニ管内ニテ

鳴ク聲似我似我ト云ニ似タリ略 數日ノ後、ソノ子大ニナリ、蜂トナリ、管ヲ穿テ出飛去ル、蛛ハ

皆食ヒ盡シテ遺ラズ、

〔天野政徳類語下〕按古今集離別の部に、すがるなく秋の萩原朝立て、旅行人をいつとかまたんと

此歌を引て、古人此すがるを鹿の事也と云、説有、其後の歌には、多くすがるを鹿の事となして、詠

る歌有、皆誤にて隨がたし、すがるは蜂なる事、いちぢるしさそりといふ蜂也、

〔瑤囊抄五〕似我々々事

蜂ニ似タル虫ヲ、ジガバチト云、何ナル名ゾ、似我似我ハ、只蜂ノ類也、本名ハ螟蛉也略 中朝野僉

載曰ク、蜂銜他虫置於窠中、呪シテ曰似我々々、即成蜂云云、故ニ名テ曰似我也略 中サレバ大師弘

法ノ御遺告ニモ、從赤子時、得人之子、教ヘテ爲弟子、如螟蛉以他子爲己子ト侍リ、

〔萬葉集九雜歌〕詠上總末珠名娘子一首并短歌